

ので覚醒剤は使用しないほうが良いと思っていた」者が少なかった。また非乱用者ではそもそも「そのことについて考えたことはなかった」とした者が男性202人(25.1%)、女性88人(24.6%)と多かった。

17) 周囲への配慮と乱用開始行動 (表43)

「覚醒剤を使う前(使ったことがない人は施設入所前)、家族・仲間・つきあっている人などに心配をかけるので覚醒剤は使用しないほうが良いと思っていましたか」について5件法で回答してもらった。

男女とも乱用者と非乱用者の間で回答に頻度に有意差があり、「人に心配をかけるので覚醒剤は使用しないほうが良いと思っていた」者が非乱用者に多かった(男女それぞれ $\chi^2=44.9$, d. f.=4,

$p<.01$; $\chi^2=44.4$, d. f.=4, $p<.01$)。非乱用者では「そのことについて考えたことはなかった」とした者が男性201人(25.0%)、女性83人(23.2%)と多かった。

18) 警察の補導と乱用開始行動 (表44)

「覚醒剤を使う前(使ったことがない人は施設入所前)、警察に捕まるから覚醒剤は使用しないほうが良いと思っていましたか」について5件法で尋ねた。

男女とも乱用者は非乱用者よりも補導されるから覚醒剤を乱用しないほうが良いと思っていた者が少なかった(男女それぞれ $\chi^2=58.5$, d. f.=4, $p<.01$; $\chi^2=25.7$, d. f.=4, $p<.01$)。また、非乱用者では「そのことについて考えたことはなかった」とした者が男性201人(25.0%)、女性82人(22.

表41-2 覚醒剤薬害知識と乱用開始行動(女性)

	覚醒剤乱用			
	経験有		経験無	
	人数	%	人数	%
思っていた	15	22.4	176	49.2
少し思っていた	26	38.8	68	19.0
あまり思っていなかった	7	10.4	34	9.5
思っていなかった	4	6.0	14	3.9
害について考えたことはなかった	13	19.4	53	14.8
無回答	2	3.0	13	3.6

($\chi^2=20.3$, d. f.=4, $p<.01$)

表42-1 周囲からの禁止と乱用開始行動(男性)

	覚醒剤乱用			
	経験有		経験無	
	人数	%	人数	%
思っていた	15	34.1	452	56.2
少し思っていた	13	29.5	47	5.8
あまり思っていなかった	4	9.1	17	2.1
思っていなかった	7	15.9	27	3.4
そのことについて考えたことはなかった	4	9.1	202	25.1
無回答	1	2.3	59	7.3

($\chi^2=62.7$, d. f.=4, $p<.01$)

表42-2 周囲からの禁止と乱用開始行動(女性)

	覚醒剤乱用			
	経験有		経験無	
	人数	%	人数	%
思っていた	16	23.9	173	48.3
少し思っていた	26	38.8	43	12.0
あまり思っていなかった	10	14.9	24	6.7
思っていなかった	4	6.0	14	3.9
そのことについて考えたことはなかった	10	14.9	88	24.6
無回答	1	1.5	16	4.5

($\chi^2=39.3$, d. f.=4, $p<.01$)

9%)と多かった。

19) 依存への心配と乱用開始行動(表45)

「覚醒剤を使う前(使ったことがない人は施設入所前)、一度使用するとやめられなくなるから覚醒剤はしないほうが良いと思っていましたか? (男性)」について5件法で尋ねた。

男女とも「やめられなくなるから覚醒剤はしないほうが良いと思っていた」者が非乱用者に多か

った(男女それぞれ $\chi^2=74.0$, d. f. =4, $p<.01$; $\chi^2=36.0$, d. f. =4, $p<.01$)。

20) 経済的理由と乱用開始行動(表46)

「覚醒剤を使う前(使ったことがない人は施設入所前)、覚醒剤はお金がかかるから使用しないほうが良いと思っていましたか」について5件法で尋ねた。

男女とも乱用者と非乱用者の間で回答に頻度に

表43-1 周囲への配慮と乱用開始行動(男性)

	覚醒剤乱用			
	経験有		経験無	
	人数	%	人数	%
思っていた	19	43.2	458	57.0
少し思っていた	12	27.3	51	6.3
あまり思っていなかった	5	11.4	28	3.5
思っていなかった	4	9.1	17	2.1
そのことについて考えたことはなかった	3	6.8	201	25.0
無回答	1	2.3	49	6.1

($\chi^2=44.9$, d. f. =4, $p<.01$)

表43-2 周囲への配慮と乱用開始行動(女性)

	覚醒剤乱用			
	経験有		経験無	
	人数	%	人数	%
思っていた	18	26.9	180	50.3
少し思っていた	27	40.3	36	10.1
あまり思っていなかった	7	10.4	26	7.3
思っていなかった	4	6.0	19	5.3
そのことについて考えたことはなかった	9	13.4	83	23.2
無回答	2	3.0	14	3.9

($\chi^2=44.4$, d. f. =4, $p<.01$)

表44-1 警察の補導と乱用開始行動(男性)

	覚醒剤乱用			
	経験有		経験無	
	人数	%	人数	%
思っていた	19	43.2	458	57.0
少し思っていた	12	27.3	51	6.3
あまり思っていなかった	5	11.4	28	3.5
思っていなかった	4	9.1	17	2.1
そのことについて考えたことはなかった	3	6.8	201	25.0
無回答	1	2.3	49	6.1

($\chi^2=58.5$, d. f. =4, $p<.01$)

表44-2 警察の補導と乱用開始行動(女性)

	覚醒剤乱用			
	経験有		経験無	
	人数	%	人数	%
思っていた	16	23.9	154	43.0
少し思っていた	24	35.9	46	12.8
あまり思っていなかった	7	10.4	36	10.1
思っていなかった	9	13.4	28	7.8
そのことについて考えたことはなかった	11	16.4	82	22.9
無回答			12	3.4

($\chi^2=25.7$, d. f. =4, $p<.01$)

有意差があり(男女それぞれ $\chi^2=37.4$, d. f. =4, $p<.01$; $\chi^2=33.9$, d. f. =4, $p<.01$), そのように「思っていた」者が非乱用者に多かった。非乱用者では男女とも3分の1ほどはそのようなことについては考えたことがなかったとしていた。

21) 覚醒剤乱用の開始理由(表47)

覚醒剤乱用開始の理由として「興味・好奇心」、「人から勧められたから」、「少しくらいなら大丈夫と思ったから」、「特にいけないことは思わなかったから」、「やせられる」、「その他」から複数回答ありで選んでもらった。

その結果, 乱用開始理由として「興味・好奇心」

表45-1 依存への心配と乱用開始行動(男性)

	覚醒剤乱用			
	経験有		経験無	
	人数	%	人数	%
思っていた	17	38.6	463	57.6
少し思っていた	8	18.2	64	8.0
あまり思っていなかった	9	20.5	30	3.7
思っていなかった	9	20.5	24	3.0
そのことについて考えたことはなかった			183	22.8
無回答	1	2.3	40	5.0

($\chi^2=74.0$, d. f. =4, $p<.01$)

表45-2 依存への心配と乱用開始行動(女性)

	覚醒剤乱用			
	経験有		経験無	
	人数	%	人数	%
思っていた	15	22.4	167	46.6
少し思っていた	26	38.9	53	14.8
あまり思っていなかった	9	13.4	32	8.9
思っていなかった	10	14.9	20	5.6
そのことについて考えたことはなかった	7	10.4	76	21.2
無回答			10	2.8

($\chi^2=36.0$, d. f. =4, $p<.01$)

表46-1 経済的理由と乱用開始行動(男子)

	覚醒剤乱用			
	経験有		経験無	
	人数	%	人数	%
思っていた	15	34.1	332	41.3
少し思っていた	6	13.6	49	6.1
あまり思っていなかった	8	18.2	42	5.2
思っていなかった	9	20.5	43	5.3
そのことについて考えたことはなかった	5	11.4	289	35.9
無回答	1	2.3	49	6.1

($\chi^2=37.4$, d. f. =4, $p<.01$)

表46-2 経済的理由と乱用開始行動(女子)

	覚醒剤乱用			
	経験有		経験無	
	人数	%	人数	%
思っていた	8	11.9	127	35.5
少し思っていた	18	26.9	33	9.2
あまり思っていなかった	16	23.9	40	11.2
思っていなかった	9	13.4	27	7.5
そのことについて考えたことはなかった	16	23.9	116	32.4
無回答			15	4.2

($\chi^2=33.9$, d. f. =4, $p<.01$)

をあげた者が男性乱用者21人(47.7%)、女性乱用者42人(62.7%)と多かつた。乱用開始理由としての「興味・好奇心」に性差はなかつた。以下「少くなら大丈夫と思つたから」、「人から勧められたから」の順であつた。この2つは女性の方が男性よりも乱用開始理由としてあげた者が多かつた(それぞれ $\chi^2=7.6$, d. f. =1, $p<.05$; $\chi^2=9.7$, d. f. =1, $p<.01$)。「やせられる」を理由としてあげたものは女性は24人(35.8%)と多かつたが、男性は4人(9.1%)と少なかつた($\chi^2=10.1$, d. f. =1, $p<.01$)。

(5) ガス乱用

1) 周囲のガス乱用者(表48)

身近に「ガス吸引」をしている人がいたかどうかを訪ねた。

男性の284人(32.1%)、女性の245人(55.4%)が自分の身近に「ガス吸引」をしている人がいたと回

答した。周囲のガス乱用者は、女性の方が有意に多かつた($\chi^2=65.1$, d. f. =1, $p<.01$)。

2) 周囲のガス乱用薬害(表49)

身近にガス乱用の結果、病気や異常になつた人がいたかどうかを訪ねた。

その結果、男性の78人(8.8%)、女性の63人(14.3%)が身近にガス乱用の結果と思われる異常を訴える人がいたと答えていた。

3) ガス入手性(表50)

ガスの入手が困難であるかどうかについて尋ねた。

簡単に手に入ると回答したのは、男性では474人(53.6%)、女性では243人(55.0%)であり、男女とも半数以上の者がガス入手は容易としていた。

4) ガスへの関心(表51)

「ガス吸引をする前(したことがない人は施設入所前)、あなたはガス吸引をどう思つていました」を尋ねた。「見てみたかつた」および「試し

表47 覚醒剤乱用者の性別乱用開始理由(複数回答可)

	男性		女性	
	人数	%	人数	%
興味・好奇心があつたから	21	47.7	42	62.7 ¹⁾
人から勧められたから	12	27.3	36	53.7 ²⁾
少くなら大丈夫と思つたから	13	29.5	40	59.7 ³⁾
特にいけないことは思わなかつたから	6	13.6	17	25.4 ⁴⁾
やせられるから	4	9.1	24	35.8 ⁵⁾
その他	1	2.3	6	9.0 ⁶⁾

1) $\chi^2=2.1$, d. f. =1, n. s.
 2) $\chi^2=7.6$, d. f. =1, $p<.05$
 3) $\chi^2=9.7$, d. f. =1, $p<.01$
 4) $\chi^2=2.2$, d. f. =1, n. s.
 5) $\chi^2=10.1$, d. f. =1, $p<.01$
 6) $\chi^2=2.0$, d. f. =1, n. s.

表48 周囲のガス乱用者

	男性		女性	
	人数	%	人数	%
いた	284	32.1	245	55.4
いない	565	63.8	185	41.9
無回答	36	4.1	12	2.7

($\chi^2=65.1$, d. f. =1, $p<.01$)

表49 周囲のガス乱用薬害

	男性		女性	
	人数	%	人数	%
いた	78	8.8	63	14.3
いない	728	82.3	347	78.5
無回答	79	8.9	32	7.2

($\chi^2=8.6$, d. f. =1, $p<.01$)

てみたかった」というガス乱用への関心を示した者が男性の144人(16.3%)、女性の122人(27.6%)を占めた。またガス乱用を知らなかった者は男性345人(39.0%)が女性89人(20.1%)より多かった。ガスへの関心は性差があった($\chi^2=54.6$, d. f.=3, $p<.01$)。

5) ガス乱用開始年齢(表52)

ガス乱用開始年齢は、男女とも13歳が最も多く、14歳、12歳と続いている。

6) ガス乱用頻度(表53)

ガスを最も乱用していた時期の吸引頻度を尋ねた。その結果、男性の方が女性より乱用頻度が多かった($\chi^2=9.0$, d. f.=2, $p<.05$)。男性では「ほ

とんど毎日」が20人(22.8%)であったが女性では18人(12.2%)であった。一方、年に数回しか吸引しなかったとした者が男性では86人(10.1%)であったのに対し女性では61人(41.5%)もいた。

7) ガス乱用への態度(表54)

この項目は、男女ごとにガス乱用経験別に比較した。ガス乱用についてどう思うかを、「すべきではない」、「少々ならかまわないと思う」、「ならかまわないと思う」の3件法で回答してもらった。「すべきではない」と答えた者は、ガス非乱用者では男性281人(40.5%)、女性100人(36.2%)だったのに対し、乱用者では男性18人(11.4%)および女性20人(13.6%)と少なかった(男女それぞれ $\chi^2=$

表50 ガス入手性

	男 性		女 性	
	人数	%	人数	%
簡単に手に入る	474	53.6	243	55.0
少々苦勞するが、なんとか手に入る	36	4.1	42	9.5
ほとんど不可能だ	35	4.0	18	4.1
絶対不可能だ	155	17.5	51	11.5
無回答	185	20.9	88	19.9

($\chi^2=21.6$, d. f.=3, $p<.01$)

表51 「ガス吸引」についてどう思っていましたか

	男 性		女 性	
	人数	%	人数	%
知らなかった	345	39.0	89	20.1
関心がなかった	335	37.9	198	44.8
見てみたかった	45	5.1	37	8.4
試してみたかった	99	11.2	85	19.2
無回答	61	6.9	33	7.5

($\chi^2=54.6$, d. f.=3, $p<.01$)

表52 ガス乱用開始年齢

	男 性		女 性	
	人数	%	人数	%
10歳以下	9	5.7	1	0.7
11歳	16	10.1	7	4.8
12歳	25	15.8	29	19.7
13歳	52	32.9	56	38.1
14歳	33	20.9	35	23.8
15歳以上	8	5.1	3	2.0
経験はあるが年齢はおぼえていない	15	9.5	16	10.9

($\chi^2=12.4$, d. f.=6, $p=n. s.$)

表53 ガス乱用頻度

	男 性		女 性	
	人数	%	人数	%
1年で数回	86	10.1	61	41.5
月に数回以上	36	54.4	57	38.8
ほとんど毎日	20	22.8	18	12.2
無回答	16	12.7	11	7.5

($\chi^2=9.0$, d. f.=2, $p<.05$)

261.6, d. f. =3, $p < .01$; $\chi^2 = 91.6$, d. f. =3, $p < .01$ 。非乱用者ではガス吸引を知らなかった者が男女それぞれ269人(38.8%), 82人(29.7%)と多かった。

8) ガスの薬害知識(表55)

ガス吸引の影響として、精神病状態、急性中毒死について尋ねた。

非乱用者では、いずれも知らなかった者が男性

486人(70.0%)女性161人(58.3%)と多くを占めていた。男性乱用者では精神病状態、急性中毒死を知っていたものはそれぞれ65人(41.1%), 49人(31.0%)であり、非乱用者よりもガス吸引の薬害をよく知っていた($\chi^2 = 42.4$, d. f. =1, $p < .01$; $\chi^2 = 21.4$, d. f. =1, $p < .01$)。女性乱用者も非乱用者よりもこれらの薬害については知っているものがあった($\chi^2 = 11.8$, d. f. =1, $p < .01$; $\chi^2 = 11.0$,

表54-1 ガス乱用への態度 (男性)

	ガス吸引			
	経験有		経験無	
	人数	%	人数	%
すべきではないと思う	18	11.4	281	40.5
少々ならかまわないと思う	74	46.8	64	9.2
かまわないと思う	53	33.5	49	7.1
「ガス吸引」は知らなかった	8	5.1	269	38.8
無回答	5	3.1	31	4.4

($\chi^2 = 261.6$, d. f. =3, $p < .01$)

表54-1 ガス乱用への態度 (女性)

	ガス吸引			
	経験有		経験無	
	人数	%	人数	%
すべきではないと思う	20	13.6	100	36.2
少々ならかまわないと思う	51	34.7	52	18.8
かまわないと思う	63	42.9	32	11.6
「ガス吸引」は知らなかった	10	6.8	82	29.7
無回答	3	2.0	10	3.6

($\chi^2 = 91.6$, d. f. =3, $p < .01$)

表55-1 ガスの薬害知識 (男性)

	ガス吸引			
	経験有		経験無	
	人数	%	人数	%
精神病状態	65	41.1	121	17.4 ¹⁾
急性中毒死	49	31.0	106	15.3 ²⁾
いずれも知らなかった	66	41.8	486	70.0 ³⁾

1) $\chi^2 = 42.4$, d. f. =1, $p < .01$
 2) $\chi^2 = 21.4$, d. f. =1, $p < .01$
 3) $\chi^2 = 45.0$, d. f. =1, $p < .01$

表55-2 ガスの薬害知識 (女性)

	ガス吸引			
	経験有		経験無	
	人数	%	人数	%
精神病状態	66	44.9	78	28.3 ¹⁾
急性中毒死	59	40.1	68	24.6 ²⁾
いずれも知らなかった	51	34.7	161	58.3 ³⁾

1) $\chi^2 = 11.8$, d. f. =1, $p < .01$
 2) $\chi^2 = 11.0$, d. f. =1, $p < .01$
 3) $\chi^2 = 21.4$, d. f. =1, $p < .01$

d. f. =1, p<.01)。また、乱用者非乱用者ともに女性は男性よりも薬害を知っていた。

9) ガスの薬害知識と抑止(表56)

ガスの薬害知識がガス吸引を抑止するかどうか検討するためガスの薬害を知っていたら乱用しなかったかどうかを乱用者に尋ねた。「害を知っていたら吸引しなかったと思う」が男性56人(35.4%)、女性36人(24.5%)であり、「やはりしていたと思う」は男女それぞれ81人(51.3%)、101人(68.7%)であった。女性の方がやはりしていたと思うと回答した者が多かった($\chi^2=6.5$, d. f. =1, p<.05)。

(6) 各薬物の地域別乱用頻度(表57)

表57に地域ごとの薬物乱用者を示した。有機溶剤乱用頻度と覚醒剤乱用頻度は地域差が認められた(それぞれ $\chi^2=71.1$, d. f. =6, p<.01; $\chi^2=13.4$, d. f. =6, p<.05)。有機溶剤乱用は、関東が26.2%で最も少なく、関西が47.7%で最も多い。覚醒剤も、関西が11.5%と最も多く、次いで四国の9.7%である。中国は3.1%と低い。一方、大麻乱用とガス乱用は地域差が見られなかった。

(7) 各薬物乱用頻度の年代変化(表58)

これまで、平成6年、平成8年、平成10年にわれわれは児童自立支援施設の全国調査を行い、入所非行児の薬物乱用頻度を調査している。これらの

結果と今回の平成12年度の薬物乱用頻度を示したものが表58である。

有機溶剤乱用は男性において一貫して減少している。女性有機溶剤乱用者は平成10年までは減少傾向にあったが、今回やや増加した。大麻乱用は、男女とも平成6年から10年まで減少し、今回平成12年はほぼ男女とも平成10年の乱用頻度と同等である。覚醒剤乱用は男性において平成10年までの増加傾向が引き続き、12年も乱用頻度が増えている。一方、女性覚醒剤乱用者は平成10年までの増加傾向からやや減少している。ガス乱用は今年度から全国調査の対象としたので年代変化は検討できなかった。

D. 考察

1. 方法論上の問題点

(1) 非行児としての代表性

本研究対象が入所している非行児童であるため、対象者は非行全体の代表とはいえない。まず、入所児童は一般の非行母集団よりも非行の程度が高い。また、児童自立支援施設入所は、家庭での監督が困難と判断される児童が入所させられるので、単に反社会行動の程度だけでなく家庭状況も考慮される。そのため、同程度の反社会行動が認められても家庭状況が悪ければ入所させられ、家

表56 ガス薬害知識と抑止

	男性		女性	
	人数	%	人数	%
しなかったと思う	56	35.4	36	24.5
やはりしていたと思う	81	51.3	101	68.7
その他	21	13.3	10	6.8

($\chi^2=6.5$, d. f. =1, p<.05)

表57 地域別薬物乱用頻度

	有機溶剤乱用者		大麻溶剤乱用者		覚醒剤乱用者		ガス乱用者	
	人数	%	人数	%	人数	%	人数	%
東北・北海道	41	24.8	13	7.9	11	6.7	45	27.3
関東	67	21.0	25	7.8	20	6.3	71	22.3
中部	38	30.9	9	7.3	6	4.9	22	17.9
関西	180	48.0	39	10.4	43	11.5	78	20.8
中国	32	33.0	3	3.1	3	3.1	24	24.7
四国	17	27.4	2	3.2	6	9.7	11	17.7
九州	43	43.4	5	5.1	6	6.1	19	19.2

有機溶剤乱用 $\chi^2=71.1$, d. f. =6, p<.01
 大麻乱用 $\chi^2=9.3$, d. f. =6, n. s.
 覚醒剤乱用 $\chi^2=13.4$, d. f. =6, p<.05
 ガス乱用 $\chi^2=5.5$, d. f. =6, n. s.

庭状況がそれほど悪くなければ自宅での指導となったりする。本調査はあくまで入所非行児の実態であり過度に普遍化することはできない。

(2) 対象者の変動

調査対象数がそれほど大きくないため、集団薬物乱用事件があると一度に多くの薬物乱用少年が施設入所になり、全体の薬物乱用頻度に影響をおよぼす可能性もある。

われわれの全国児童自立支援施設薬物乱用実態調査の回答数は、平成6年1339人、平成8年1194人、平成10年1315人および今回平成12年1327人であり大きな変動はない。しかし、以前の調査と比較して、今回調査被験者として関西地域の入所児童数が多かった。この関西地域の入所児童では、今回有機溶剤、覚醒剤の乱用率が明らかに高かった。このような今年度の母集団の特性から、有機溶剤乱用と覚醒剤乱用については、従来のわれわれの調査対象よりも乱用頻度が高くなっている可能性がある。

(3) 無回答率の問題

有効回答率を上げるために無記名式の質問紙調査としているが、質問内容が薬物乱用という反社会行動であるため無回答が多い。表7に示したように、薬物乱用頻度の質問項目では3%から5%が無回答であった。男性における覚醒剤および大麻乱用では乱用率が5%前後であり、無回答率が乱用率とあまり変わらない。したがってこれらでは乱用率の信頼性にやや疑問が残る。

2. 薬物乱用頻度の性差

入所非行児の薬物乱用の性差については、従来いずれの薬物も女性は男性より乱用頻度が高かった。今回もこの傾向は変わらなかった。

従来どおり男性より女性の方がいずれの薬物乱用率も高かった。しかし、前述のように対象の代表性の問題より、実際に社会内の非行集団あるいは非行文化の中で女性に薬物乱用が多いかどうかはこれだけでは分からない。女性の場合の方が薬物乱用をしたというだけで施設入所になる可能性が高いかもしれない。また、今回の入所非行児の薬物乱用性差が、一般青少年における薬物乱用の性差と同じとも限らない。

ただ、実際の施設において女性に薬物非行が多いことは、非行への指導方法が、男性と女性で異なる可能性を示唆している。

3. 薬物乱用の地域差

今回乱用者の頻度地域ごとの検討したが、薬物の種類により地域特徴が認められた。今回の調査では、関西地域は有機溶剤乱用および覚醒剤乱用頻度が高かった。前回の調査では有機溶剤乱用の地域差は認められず、その理由として有機溶剤が工業製品であるため全国どこでも手に入れることができるためと考えたが、今回の結果はこれと符合しない。やはり薬物乱用文化差があるのかもしれない。あるいは施設への入所基準が地域により異なる可能性もある。

今回全国調査の対象薬物としたガスはどの地域でも20%から30%近い乱用率を示した。これは、有機溶剤乱用頻度について多く、覚醒剤乱用や大麻乱用よりも多かった。ターボライターガスは普通に販売され入手が簡単であるため、手軽な乱用物

表58-1 薬物乱用の年代変化（男性）

	単位：%			
	1994	1996	1998	2000
有機溶剤	41.2	37.3	30.3	26.4
大麻	5.5	6.7	4.8	5.0
覚醒剤	1.2	1.7	3.9	5.0

表58-2 薬物乱用の年代変化（女性）

	単位：%			
	1994	1996	1998	2000
有機溶剤	59.6	50.6	48.5	52.3
大麻	22.0	19.0	14.4	14.7
覚醒剤	6.6	10.8	16.9	15.2

質として少年の間にひろまっている可能性がある。今後、有機溶剤に替わりライターガスが覚醒剤その他の重大薬物へのゲートウェイドラッグになっていかないかどうか継続的調査必要である。

4. 薬物乱用の年代変化

(1) 覚醒剤乱用頻度

平成7年頃より増加してきた覚醒剤乱用は平成平成10年より減少傾向にある。これに対して、われわれの児童自立支援施設調査の覚醒剤乱用頻度は、平成10年までは男女とも覚醒剤乱用少年は増加していたが、今回平成12年度は男性が3.9%から5.1%へ増加したものの女性では16.9%から15.2%に減少した。

前述のように対象施設の変動の問題より解釈には注意が必要である。今回は調査被験者として関西地域の入所児童数が多く、また覚醒剤乱用者も関西地域で明らかに多かった。平成10年度までの結果と比較する上で関西地域の調査対象数増加を考慮する必要がある。10年度までの同様に関西地域の被験者が少なければ全体の覚醒剤乱用頻度はもう少し低くなる。

この点を考慮すると児童自立支援施設入所児童自立支援施設における覚醒剤乱用頻度はここ数年の単調増加傾向がやや変化している可能性がある。

(2) 有機溶剤乱用頻度

男性では平成6年度調査より有機溶剤乱用は減少傾向が続き、平成6年度の41.2%から今回は26.4%になった。一方、女性では平成6年の59.6%から前回平成10年の48.5%まで減少してきたが、今回は52.3%に若干上昇した。

有機溶剤乱用も覚醒剤乱用と同様に対象の変動の影響がある。今回人数の多かった関西地域で有機溶剤乱用者が多かった。したがって、平成10年度までの結果と比較する上で関西地域の調査対象数増加を考慮する必要がある。10年度までの同様に関西地域の被験者が少なければ有機溶剤乱用頻度はもう少し低くなるので、女性における有機溶剤乱用は見かけ上のものに過ぎないのかもしれない。

(3) 大麻乱用

大麻乱用は男女とも前回平成10年度結果と差は見られなかった。大麻乱用は有機溶剤乱用や覚醒剤乱用と異なりそれほど地域差がないため、有機

溶剤乱用や覚醒剤乱用のように調査対象施設の問題は考慮しなくても良いと思われる。

5. 薬物への態度と薬物乱用

平成10年調査の調査と同様に、今回対象薬物について、各薬物の乱用についてどう思うか、および法律で薬物乱用を禁止していることをどう思うかを尋ねた。ただし、前回薬物への態度が乱用前後で変化したかどうかを検討できなかったため、今回は薬物乱用以前にどう考えていたかを明示した質問とした。ただし、このように質問文を変更しても後追い調査であるので、回想による回答の歪曲は含まれる。全体として従来の結果とほぼ同様な結果が得られた。すなわち、乱用者は非乱用者よりも薬物乱用に許容的であり、また乱用を法律で禁止する必要はなく個人の好きにすればよいと考える傾向にある。また、乱用者、非乱用者に限らず女性の方が男性より薬物乱用に許容的である。

6. 薬害知識

薬物乱用の薬害については社会的にいろいろな教育活動が行われているが、具体的薬害について知らない児童が依然多い。特に非乱用者この傾向が強い。

具体的薬害知識が乱用前からあったら乱用しなかったかどうかという、薬害知識と乱用抑止の関係も前回同様に検討した。その結果、やはり前回同様な傾向にあった。結果に示したとおり、もし薬害を知っていたら使用しなかったと答えた者は、有機溶剤乱用者、大麻乱用者、覚醒剤乱用者、ガス乱用者のおよそ20%から30%ほどであった。残りの大多数は、薬害知識があっても使用しただろうと答えている。これは、単なる知識としての啓蒙教育で防げるの薬物乱用は全体の一部に過ぎないことを予測させる。ただ、今回も薬物の害について質問紙で簡単に尋ねただけなので、十分な啓蒙教育を実際に実施にその前後で態度の変化を測定しなければ教育による態度変容の効果を判定することは難しい。

7. 覚醒剤の薬害体験率

覚醒剤乱用者の精神病症状とフラッシュバックの発現頻度を今回検討した。これは自記式であるため正確に症状を把握していないが一つの目安と

してみしておく。

幻覚・妄想など精神病症状は女性に多く乱用者のほぼ30%が体験したと回答していた。男性は乱用頻度自体が少ないうえ、精神病症状の訴え率も15.9%と少なかった。理由としては乱用量や期間などが影響している可能性が考えられる。フラッシュバックについては男女差はなく、男女とも25%から30%ほどが体験していた。精神病症状とフラッシュバックで薬害体験の性差が異なった理由ははっきりしない。事例数が少ないためさらに今後事例を集めて検討する必要がある。

8. 覚醒剤の乱用抑止要因

今回覚醒剤乱用を抑制する要因としての影響を検討した。項目は平成11年の児童自立支援施設面接調査における自由回答をもとに要因を検討した。

まず、覚醒剤乱用防止の教育ビデオの効果を見てみた。ビデオ見たことがあるのは男性の乱用者で多かった。この理由はとして、男性の乱用者ではこれで薬物非行により何度か補導・指導を受けていたのではないかということが考えられる。

覚醒剤乱用者ではビデオを見て怖いと思った頻度が男女とも非乱用者より少ない。特に男性ではビデオを見た覚醒剤乱用者では半数以上が「怖いと思わなかった」ないし「あまり怖いと思わなかった」としている。乱用者は最初から不安傾向が低く怖いと思わないのかもしれない。また、乱用者ではビデオを見る前すでに乱用していて実際にはそれほど大したことはないと思ったのか知れない。あるいは、ビデオを見た後に乱用したが薬害も特になかったのでビデオ内容への認知が変化したのかもしれない。

また、覚醒剤乱用開始を抑制する態度・考えとして、覚醒剤による脳や体への影響、周囲からの禁止、周囲への配慮、警察による補導、依存状態へのおそれ、経済的理由、の6項目を検討した。その結果、男女ともこれら覚醒剤乱用を抑止すると思われる態度が乱用者で低かった。また、女性の方が乱用者、非乱用者ともこれらの抑止的態度低い傾向にあった。しかし、これらの態度が最も弱い女性乱用者においても20%から30%はこれらの理由により覚醒剤はやらない方が良いと思っていたと答えている。したがって、いけないと思っても覚醒剤に手を出してしまうという乱用者の

特性を良く表していると考えられた。

9. 覚醒剤乱用開始理由

覚醒剤を乱用しようと思った理由については、男女とも「興味・好奇心があったから」をあげるものが最も多かった。全体に開始理由はすべての項目で女性のほうが理由としてあげた率が高かったが、もともとの回答態度の性差もあると思われる。ただし、特に性差が目立った「やせられるから」は明らかに覚醒剤乱用開始理由として意味のある性差と思われる。

10. 今後の課題

(1) 薬物乱用の動態の縦断的調査

児童自立支援施設においては、児童の入所期間が1年以上になることが多い。したがって、入所非行中の薬物乱用実態は一般非行児の乱用実態からやや遅れて調査結果に反映されることが考えられる。警察白書で平成10年以降少年薬物乱用検挙数が減少しているが、入所非行児においても薬物乱用者が減少していくかどうか継続的調査が必要である。

(2) 覚醒剤乱用少年の態度と予防活動

最近の覚醒剤乱用増加より、今年度は覚醒剤乱用者の態度や乱用開始要因に関する調査項目を増やした。そして、覚醒剤の薬害知識はあり、乱用することはいけないと考えたり、乱用しないほうが良いと考えたりするにもかかわらず実際には手を出している状況が示された。

今後、児童自立支援施設における薬物乱用予防教育・対策としてどのような方法が有効かを考える必要がある。今回の結果より、どのようにすれば乱用者においても態度変容をおこすことができるのか、またどの態度を変えることが効果的であるか、どの態度が変えやすいのか等を検討しなければならない。薬物乱用少年と非乱用少年とでは薬物への態度が異なるので薬物乱用対策も異可能性もある。

(3) ガス乱用の動向

今回より調査対象としたガス乱用は、有機溶剤乱用に次ぐ頻度を示していた。ライターガスは日常的に手軽に購入でき、乱用物質として今後とも広がる可能性がある。したがって、ガス乱用の実

態を今後注意深く追跡する必要がある。

謝辞

本研究は、全国の児童自立支援施設の多くの方々のご協力により実施ができました。ご協力いただいた方々にここで深謝させていただきます。

参考文献

- 1) 阿部恵一郎：児童福祉施設(教護院)における有機溶剤乱用少年・少女の実態調査。平成6年度厚生科学研究費補助金「麻薬等総合対策研究事業」薬物依存研究の社会的、精神医学的特徴に関する研究 平成6年度研究結果報告書。1995

- 2) 庄司正実：全国の児童自立支援施設における薬物依存の意識・実態に関する研究 平成10年度厚生科学研究「薬物乱用・依存等の疫学的研究及び中毒性精神病患者等に対する適切な医療のあり方についての研究」。1999

- 3) 警察庁編：平成11年度警察白書。大蔵省印刷局。2000

- 4) 庄司正実：全国の児童自立支援施設における薬物依存の意識・実態に関する研究 平成11年度厚生科学研究「薬物乱用・依存等の疫学的研究及び中毒性精神病患者等に対する適切な医療のあり方についての研究」。2000

資料：調査質問紙

- あなたの年齢はいくつですか？ 年齢を記入してください _____ 歳
- 学校は？ ①小学校 ②中学校 ③高校 ④専門学校 ⑤中学卒業後で無職 ⑥就労中
- 何年生ですか？学年を記入してください _____ 年生
- 男性ですか，女性ですか？ ①男性 ②女性
- 施設(児童自立支援施設)に入る前，お酒(アルコール類)をどのくらい飲んでいましたか？
①飲んだことはない ②1年で数回飲んだ ③月に2,3回 ④週に2,3回かそれ以上
- あなたの身近に「シンナー遊び」をしている人がいましたか？ ①いた ②いない
- あなたの身近に「シンナー遊び」の結果，病気や異常になった人がいましたか？
①いた ②いない
- 施設に入る前，「シンナー遊び」のために有機溶剤(シンナー，ポンド，その他)を手に入れようとした場合，それはどの程度難しいことでしたか？
①簡単に手に入る ②少々苦勞するが，なんとか手に入る
③ほとんど不可能だ ④絶対不可能だ
- これまでに一回でも「シンナー遊び」を経験したことがありますか？ある場合は，初めて経験した年齢を選んでください
①経験がない ②10歳以下 ③11歳 ④12歳 ⑤13歳
⑥14歳 ⑦15歳以上 ⑧経験はあるが年齢はおぼえていない
- 施設に入る前，最もしていた時で「シンナー遊び」をどのくらいしていましたか？
①したことはない ②1年で数回した ③月に数回以上した ④ほとんど毎日
- 「シンナー遊び」は法律で禁止されていますが，「シンナー遊び」をする前(したことがない人は施設入所前)，あなたは「シンナー遊び」をどう思っていましたか？
①法律で禁じられているから，すべきではないと思っていた
②法律で禁じられてはいるが，少々ならかまわないと思っていた
③法律で禁じられてはいるが，それを守る必要は全然ないと思っていた
- 法律で「シンナー遊び」を禁止しているのを「シンナー遊び」をする前(したことがない人は施設入所

前) どう思っていましたか？

- ①当然だと思っていた
- ②しかたないことだと思っていた
- ③麻薬・覚せい剤とちがって、シンナーくらい禁止しなくてもいいのではないかと考えていた
- ④そもそも法律で決める必要はなく、個人の好きにさせればよいと思っていた

13. 「シンナー遊び」をしすぎたり繰り返すと、下のようなことが起こることがあります。「シンナー遊び」をする前(したことがない人は施設入所前)、「シンナー遊び」でおこることとして知っていたものすべてに○をつけてください。

- ①急性中毒死(吸っていてそのまま急に死ぬこと)
- ②多発神経炎(手足の筋肉や神経がおとろえ、物がつかめなくなったり、歩けなくなること)
- ③精神病状態(何もないのに物が見えたり声が聞こえたりする幻覚、誰もいないのに自分が見られているとか自分がうわさ噂されていると思いこんだりする妄想がでること)
- ④無動機症候群(何もする気がなくなり、学校を欠席したり仕事が長続きしなくなること)
- ⑤フラッシュバック(「シンナー遊び」をやめて吸わなくなったのに、疲れ・ストレス・飲酒などで、幻覚や妄想が出ること)
- ⑥いずれも知らなかった

14. 「シンナー遊び」をすると上記質問のような急性中毒死・多発神経炎・精神病状態・無動機症候群・フラッシュバックになることを知っていたら「シンナー遊び」をしなかったと思いますか？(もともと「シンナー遊び」をしていない人は③を選んでください)

- ①しなかったと思う ②やはりしていたと思う ③「シンナー遊び」はしたことがない

15. あなたの身近に「ガス吸引(ガスパン遊びやライターガスの吸引など)」をしている人がいましたか？

- ①いた ②いない

16. あなたの身近に「ガス吸引」の結果、病気や異常になった人がいましたか？ ①いた ②いない

17. 施設に入る前、「ガス吸引」のためのライターガスなどを手に入れようとした場合、それはどの程度難しいことでしたか？

- ①簡単に手に入る ②少々苦勞するが、なんとか手に入る
- ③ほとんど不可能だ ④絶対不可能だ

18. 「ガス吸引」をする前(使ったことがない人は施設入所前)、「ガス吸引」についてあなたはどのように思っていましたか？

- ①「ガス吸引」は知らなかった ②関心がなかった ③見てみたかった ④試してみたかった

19. これまでに一回でも「ガス吸引」を経験したことがありますか？ある場合は、初めて経験した年齢を選んでください

- ①経験がない ②10歳以下 ③11歳 ④12歳 ⑤13歳
- ⑥14歳 ⑦15歳以上 ⑧経験はあるが年齢はおぼえていない

20. 施設に入る前、最もしていた時で「ガス吸引」をどのくらいしていましたか？

- ①したことはない ②1年で数回した ③月に数回以上した ④ほとんど毎日

21. 「ガス吸引」をする前(したことがない人は施設入所前)、あなたは「ガス吸引」をどう思っていましたか？

- ①すべきではないと思っていた
- ②少々ならかまわないと思っていた
- ③かまわないと思っていた
- ④「ガス吸引」は知らなかった

22. 「ガス吸引」をすると質問11のような精神病状態や急性中毒死をおこすことをガス吸引をする前に(したことがない人は施設入所前)知っていましたか？「ガス吸引」でおこることとして知っていたものすべてに○をつけてください。

- ①精神病状態せいしんびょうじょうたい ②急性中毒死きゅうせいちゅうどくし ③いずれも知らなかった
23. 「ガス吸引」をすると、精神病状態せいしんびょうじょうたいや急性中毒死きゅうせいちゅうどくしになることがあるのを知っていたら「ガス吸引」をしなかったと思いますか？(もともと「ガス吸引」をしなかった人は③を選んでください)
- ①使わなかったと思う ②やはり使ったと思う ③「ガス吸引」はしたことがない
24. あなたの身近に大麻(マリファナ, ハシッシ, ハッパなど)を吸っている人がいましたか？
- ①いた ②いない
25. あなたの身近に大麻を吸った結果、病気や異常になった人がいましたか？ ①いた ②いない
26. 施設に入る前、大麻を手に入れようとした場合、それはどの程度難しいことでしたか？
- ①簡単に手に入る ②少々苦労するが、なんとか手に入る
③ほとんど不可能だ ④絶対不可能だ
27. 大麻を吸う前(使ったことがない人は施設入所前)、大麻についてあなたはどう思っていましたか？
- ①大麻は知らなかった ②関心がなかった ③見てみたかった ④試してみたかった
28. これまでに一回でも大麻(マリファナ, ハシッシ, ハッパ)を吸ったことがありますか？ある場合は、初めて経験した年齢を選んでください
- ①経験がない ②10歳以下 ③11歳 ④12歳 ⑤13歳
⑥14歳 ⑦15歳以上 ⑧経験はあるが年齢はおぼえていない
29. 施設に入る前、最もしていた時で大麻をどのくらい吸っていましたか？
- ①吸っていない ②1年で数回吸った ③月に数回以上吸った ④ほとんど毎日吸っていた
30. 大麻は法律で禁止されていますが、大麻を吸う前(使ったことがない人は施設入所前)あなたは大麻をどう思っていましたか？
- ①法律で禁じられているから、すべきではないと思っていた
②法律で禁じられてはいるが、少々ならかまわないと思っていた
③法律で禁じられてはいるが、それを守る必要は全然ないと思っていた
31. 大麻を吸う前(使ったことがない人は施設入所前)、法律で大麻を禁止しているのをどう思っていましたか？
- ①当然だと思っていた
②しかたないことだと思っていた
③麻薬・覚醒剤とちがって、大麻くらい禁止しなくてもいいのではないかと考えていた
④そもそも法律で決める必要はなく、個人の好きにさせればよいと思っていた
32. 大麻を吸うと質問11と同じ精神病状態せいしんびょうじょうたいや無動機症候群むどうきしょうこうぐんになることを大麻を吸う前(したことがない人は施設入所前)に知っていましたか？大麻でおこることとして知っていたものすべてに○をつけてください。
- ①精神病状態せいしんびょうじょうたい ②無動機症候群むどうきしょうこうぐん ③いずれも知らなかった
33. 大麻を吸うと、精神病状態せいしんびょうじょうたいや無動機症候群むどうきしょうこうぐんになることがあるのを知っていたら大麻を使わなかったと思いますか？(もともと大麻を使っていない人は③を選んでください)
- ①使わなかったと思う ②やはり使ったと思う ③大麻は使ったことがない
34. あなたの身近に覚醒剤(スピード, エスも同じものです)を使っている人がいましたか？
- ①いた ②いない
35. あなたの身近に覚醒剤の結果、病気や異常になった人がいましたか？ ①いた ②いない
36. 施設に入る前、覚醒剤を手に入れようとした場合、それはどの程度難しいことでしたか？
- ①簡単に手に入る ②少々苦労するが、なんとか手に入る
③ほとんど不可能だ ④絶対不可能だ
37. 覚醒剤(スピード, エス)を使う前(使ったことがない人は施設入所前)、覚醒剤についてあなたはどう思っていましたか？
- ①覚醒剤は知らなかった ②関心がなかった ③見てみたかった ④試してみたかった

38. 入所前、覚醒剤の使用を誘われたことがありますか？ ①ある ②ない
39. これまでに一回でも覚醒剤(スピード, エス)を使用したことがありますか？ある場合は初めて経験した年齢を選んでください
 ①経験がない ②10歳以下 ③11歳 ④12歳 ⑤13歳
 ⑥14歳 ⑦15歳以上 ⑧経験はあるが年齢はおぼていない
40. 施設に入る前、最も使っていた時で覚醒剤(スピード, エス)をどのくらい使っていましたか？
 ①したことはない ②1年で数回した ③月に数回以上した ④ほとんど毎日
41. 覚醒剤(スピード, エス)を使ったことがある人はどんな方法で使いましたか？(もともと覚醒剤をしていない人は④を選んでください)
 ①吸引 ②注射 ③吸引と注射の両方 ④覚醒剤は使ったことがない
42. 覚醒剤(スピード, エス)は法律で禁止されていますが、覚醒剤(スピード, エス)を使う前(使ったことがない人は施設入所前)あなたは覚醒剤をどう思っていましたか？
 ①法律で禁じられているから、すべきではないと思っていた
 ②法律で禁じられてはいるが、少々ならかまわないと思っていた
 ③法律で禁じられてはいるが、それを守る必要は全然ないと思っていた
43. 覚醒剤(スピード, エス)を使う前(使ったことがない人は施設入所前)、法律で覚醒剤(スピード, エス)を禁止しているのをどう思っていましたか？
 ①当然だと思っていた
 ②しかたないことだと思っていた
 ③そもそも法律で決める必要はなく、個人の好きにさせればよいと思っていた
44. 覚醒剤によって質問12と同じ精神病状態やフラッシュバックが起こることを覚醒剤を使う前(使ったことがない人は施設入所前)知っていましたか？覚醒剤でおこることとして知っていたものすべてに○をつけてください。
 ①精神病状態 ②フラッシュバック ③いずれも知らなかった
45. 覚醒剤を使った結果、質問12と同じ精神病状態やフラッシュバックを体験したことがありますか？体験したことすべてに○をつけてください。(もともと覚醒剤を使っていない人は④を選んでください)
 ①精神病状態 ②フラッシュバック
 ③使ったことはあるがいずれも体験しなかった ④覚醒剤は使ったことがない
46. 覚醒剤を使うと、精神病状態、フラッシュバックになることを知っていたら覚醒剤を使わなかったと思いますか？(もともと覚醒剤を使っていない人は③を選んでください)
 ①使わなかったと思う ②やはり使ったと思う ③覚醒剤は使ったことがない
47. 覚醒剤を使う前(使ったことがない人は施設入所前)、学校その他で覚醒剤についてのビデオを見たことがありますか？(ビデオを見たことがない人は⑤を選んでください)
 ①ビデオを見てとても怖いと思った ②ビデオを見て少し怖いと思った
 ③ビデオを見たがあまり怖いと思わなかった ④ビデオを見たがぜんぜん怖いと思わなかった
 ⑤覚醒剤のビデオは見えていない
48. 覚醒剤を使う前(使ったことがない人は施設入所前)、体や脳に害があるから覚醒剤は使用しないほうが良いと思っていましたか？
 ①思っていた ②少し思っていた ③あまり思っていなかった
 ④思っていなかった ⑤害について考えたことはなかった
49. 覚醒剤を使う前(使ったことがない人は施設入所前)、家族・仲間・つきあっている人などから禁止されていたので覚醒剤は使用しないほうが良いと思っていましたか？
 ①思っていた ②少し思っていた ③あまり思っていなかった
 ④思っていなかった ⑤そのことについて考えたことはなかった
50. 覚醒剤を使う前(使ったことがない人は施設入所前)、家族・仲間・つきあっている人などに心配をか

けるので覚醒剤は使用しないほうが良いと思っていましたか？

- ①思っていた ②少し思っていた ③あまり思っていなかった
④思っていなかった ⑤そのことについて考えたことはなかった

51. 覚醒剤を使う前(使ったことがない人は施設入所前), 警察に捕まるから覚醒剤は使用しないほうが良いと思っていましたか？

- ①思っていた ②少し思っていた ③あまり思っていなかった
④思っていなかった ⑤そのことについて考えたことはなかった

52. 覚醒剤を使う前(使ったことがない人は施設入所前), 一度使用するとやめられなくなるから覚醒剤はしないほうが良いと思っていましたか？

- ①思っていた ②少し思っていた ③あまり思っていなかった
④思っていなかった ⑤そのことについて考えたことはなかった

53. 覚醒剤を使う前(使ったことがない人は施設入所前), 覚醒剤はお金がかかるから使用しないほうが良いと思っていましたか？

- ①思っていた ②少し思っていた ③あまり思っていなかった
④思っていなかった ⑤そのことについて考えたことはなかった

54. 覚醒剤を使ったことがある人にお聞きします。はじめに覚醒剤をやってみようと思ったのはなぜですか。あてはまるものすべてに○をつけてください。(もともと覚醒剤を使っていない人は⑦を選んでください)

- ①興味・好奇心があったから ②人から勧められたから
③少しくらいなら大丈夫と思ったから ④特にいけないことは思わなかったから
⑤やせられるから ⑥その他
⑦覚醒剤は使ったことがない

55. シンナー遊び, ガス吸引, 大麻, 覚醒剤のいずれかでも使ったことがある人に聞きます。これまで使った順にそれぞれの()のなかに1から順に番号を付けてください。一つだけしかやっていない人は1のみ, 二つやったことがある人は1から2まで, 三つやったことがある人は1から3まで, 四つやったことがある人は1から4まで番号をつけてください。(いずれも使っていない人は何もつけなくてかまいません)

- () シンナー遊び
() ガス吸引
() 大麻
() 覚醒剤

56. 施設(児童自立支援施設)に入ったのはいつですか？

- ①小学4年生以下 ②小学5年生 ③小学6年生
④中学1年生 ⑤中学2年生 ⑥中学3年生
⑦高校・専門学校生 ⑧就職中 ⑨中卒後無職中

57. 家庭裁判所から呼び出されたことはありますか？

- ①ある ②ない

58. 以下のようないわゆる非行について, したことがあるのはどれですか？したことがあるものすべてに○をつけてください。

- ①外泊や家出をした ②人にけがをさせた ③家からお金を持ち出した
④自転車を盗んだ ⑤人の物やお金を盗んだ ⑥ひったくり, カツアゲ
⑦家の中で暴れた ⑧暴走族に入った ⑨物や家に火をつけた
⑩学校をさぼった ⑪バイクや自動車を盗んだ ⑫人の物やみんなの物をわざと壊した
⑬不良仲間とつき合った ⑭暴力団とつき合った ⑮根性焼きやいれずみ入墨をした
⑯無免許運転 ⑰性関係のこと ⑱その他

59. あなたが初めて「質問57のような悪いこと」をしたのはいつですか？

- ①小学校入学前 ②小学1年生 ③小学2年生 ④小学3年生 ⑤小学4年生
⑥小学5年生 ⑦小学6年生 ⑧中学1年生 ⑨中学2年生 ⑩中学3年生
⑪中学卒業以後

60. 自傷行為（自分で手首を切る、自殺しようとするなど）をしたことがありますか？

- ①ない ②1回ある ③2回から3回ある ④数回以上ある

61. 少々危険でもスリルのあるスポーツをするのが好きだ

- ①あてはまる ②ややあてはまる ③どちらともいえない ④ややあてはまらない
⑤あてはまらない

62. 少々危険でも活動的な仕事の方が好きだ

- ①あてはまる ②ややあてはまる ③どちらともいえない ④ややあてはまらない
⑤あてはまらない

63. スリルのある活動や冒険（ぼうけん）的な行為は好きだ

- ①あてはまる ②ややあてはまる ③どちらともいえない ④ややあてはまらない
⑤あてはまらない

64. 成功する見込みがなくとも、あえて危険をおかす方だ

- ①あてはまる ②ややあてはまる ③どちらともいえない ④ややあてはまらない
⑤あてはまらない

65. スピード感のある乗り物が好きだ

- ①あてはまる ②ややあてはまる ③どちらともいえない ④ややあてはまらない
⑤あてはまらない

66. 流行に合わせて趣味を変えるのも楽しい

- ①あてはまる ②ややあてはまる ③どちらともいえない ④ややあてはまらない
⑤あてはまらない

67. スキャンダラスな（世の中をさわがすような）話題が好きだ

- ①あてはまる ②ややあてはまる ③どちらともいえない ④ややあてはまらない
⑤あてはまらない

68. 騒がしいが楽しい雰囲気（ふんいき）の中で踊るのが好きだ

- ①あてはまる ②ややあてはまる ③どちらともいえない ④ややあてはまらない
⑤あてはまらない

69. 常にマスコミに接して新しい情報を取り入れるのが好きだ

- ①あてはまる ②ややあてはまる ③どちらともいえない ④ややあてはまらない
⑤あてはまらない

70. はらはらさせられることがあっても飽きさせない人と付き合うのが楽しい

- ①あてはまる ②ややあてはまる ③どちらともいえない ④ややあてはまらない
⑤あてはまらない

71. できれば様々な体験をしてみたい

- ①あてはまる ②ややあてはまる ③どちらともいえない ④ややあてはまらない
⑤あてはまらない

72. 目新しく変化に富んだいろいろな事してみたい

- ①あてはまる ②ややあてはまる ③どちらともいえない ④ややあてはまらない
⑤あてはまらない

73. 興奮したりわくわくすることは好きだ

- ①あてはまる ②ややあてはまる ③どちらともいえない ④ややあてはまらない
⑤あてはまらない

74. 特殊（とくしゅ）で変わった仕事してみたい

- ①あてはまる ②ややあてはまる ③どちらともいえない ④ややあてはまらない
⑤あてはまらない

75. できるだけ体験のできるアルバイトをしてみたい

- ①あてはまる ②ややあてはまる ③どちらともいえない ④ややあてはまらない
⑤あてはまらない

分 担 研 究 報 告 書
(1-4)

救命救急センターにおける薬物乱用・依存等の実態に関する研究(1)

分担研究者 宮内雅人 日本医科大学 高度救命救急センター 助手

研究要旨 救命救急センター入室患者、今回は特に中毒症例を対象とし、尿検体による乱用薬物のスクリーニング検査を実施することによって、救急医療の最前線での乱用薬物に対する簡便かつ迅速で信頼度の高いスクリーニング検査の確立を行った。日本医科大学高度救命救急センターに入室となった中毒症例308例に対し、unlinked anonymous法を用いて、簡易スクリーニングであるTriageを施行した症例178例につき137例で陽性所見が得られ、それらの確認検査としてGC/MS、LC/MSをTriage陽性例で63例行い、高い感度、特異度がえられた。しかし benzodiazepines で1例、偽陰性がみられ、またTriageでは検出できないマジックマッシュルームやGHB、トルエン症例もTriage未施行例でみられ、今後はそれらを含めた簡易なスクリーニングキットの開発も必要と思われた。

A. 研究目的

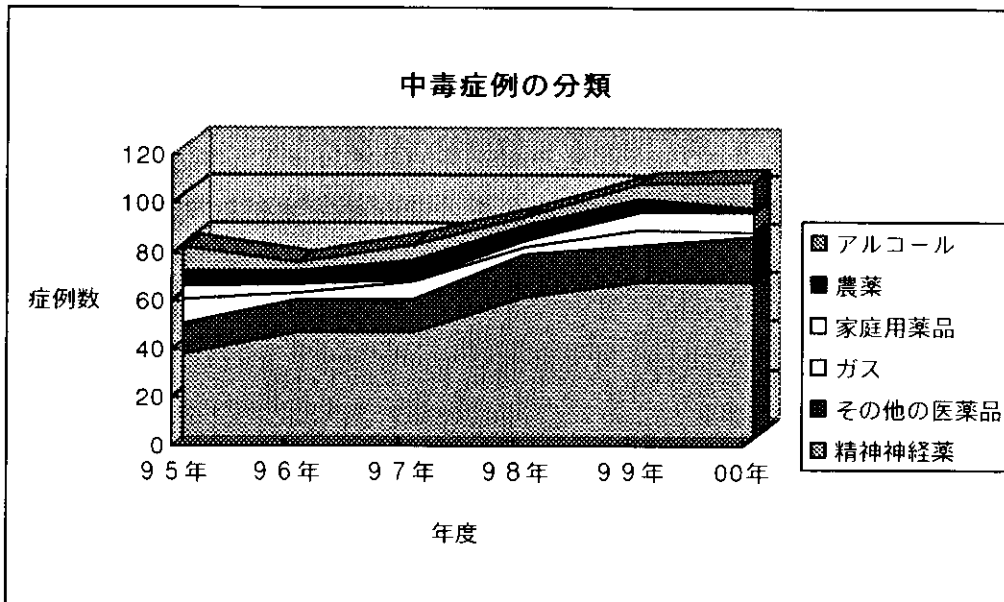
全国に149ある救命救急センターは第3次救急施設として重症、重篤な患者を24時間体制で受けられる、救急医療の最後の砦としての役割を果たしており、症例の疾患類は多岐にわたる。その中で中毒症例は、ときに他の施設では扱いかねる、事件性をおびた症例のこともあり、いつ、何時、和歌山カレー砒素入り事件など、初期治療の際、原因のわからない件に遭遇するともかぎらない。教科書的な診断、いわゆる疾患を特定したうえで治療にいたる流れなどは救命センターでは特に困難である。というのも診断の基礎である問診や理学所見がとれない症例が殆どであるからである。症例の多くは来院時、意識状態が悪く、また時に心肺停止状態にて、来院する場合もあり、診断治療よりもまず救命処置を行わなければならないこともある。よって少ない情報のなかでの、限られた時間内での迅速な検査、診断、原因物質の解明はとくに救命救急センターにおいては重要とおもわれる。しかし残念ながら現代の情報化社会は、多種にわたる薬物の入手を容易に可能とし、症例自体を複雑なものとしている。我々は来院した薬物中毒患者が、薬物乱用者が外国人であることや、テロリズム、海外で購入した薬物による中毒症例、さらに薬物使用の既往歴をもつ患者以外に、いわゆる一般人によるインターネットで購入した薬物による中毒、などの症例を経験しており、

今後はさらに複雑怪奇な多岐にわたる症例に遭遇する可能性をも危惧している。よってその実態を正確に把握し今後の薬物中毒の動向を予想し、いつくるかもしれない患者に対し、パラメディカルと連携しそれに備えることはとくに大切とおもわれる。今回は当院救命救急センターにおける最近6年間の薬物中毒患者の推移を提示し、中毒症例の治療で欠かせない、原因物質のスクリーニング方法の確立を目指す。

B. 研究方法

東京都心に位置する日本医科大学高度救命救急センターに、最近6年間で来院した中毒症例を、薬物・毒物の種類により分類し、それぞれの推移を調べた。尚、両救命救急センターの患者受け入れにかんしてのシステムは、原則として、第3次救急施設として東京消防庁のホットラインを通じての直接搬入が主であるが他当院救急外来からの搬入、また他病院からの紹介もある。

一方、1次スクリーニング検査の方法として、最近3年間で救命救急センター搬入入室患者（年間3次救急患者数約1500名）のうち、中毒が原因となって入院した症例を対象とし、入室直後、救命救急センター初療室で一般的に採取されている患者尿より一部検体を収集、乱用薬物スクリーニングを、米国 Biosite 社より発売されている尿中（乱用）薬物スクリーニングキットである Triage



を用いて、救命救急センター初療室で、同センター勤務医(不特定)が検査を実施、記録した。Triageというのは一般に amphetamin(AMP)、cocaine metabolites(COC)、opiates(OPI)、cannabinoids(THC)、phencyclidine(PCP)、barbiturates(BAR)、benzodiazepines(BZO)、tricyclic antidepressants(TCA)の8種類の薬物を、主に米国における乱用薬物群を検出対象としている。

なおこの尿中(乱用)薬物スクリーニングキット、Triageはそれぞれのcut off値を米国乱用薬物・精神衛生サービス管理局(SAMHSA)の勧告値に依っている。またこの研究は倫理面についてはヒトを対象とする臨床研究であり、しかも特に違法性のある禁止薬物の検出であることから、プライバシーほか実施にあたっては格別の配慮を要しており、この点に関して、これまで、

- 1、尿は診療上の必要から入室患者の全例において採取しているものであり、これを検体とすることによる身体的、精神的に患者に新たな負担を増やすものでないこと。
- 2、分析の結果は診療上に対してのみ反映させ、司法当局はじめ外部に対しては法に基づく正規の手続きによる要請以外では漏洩することのないこと。

と、配慮してきているが、さらに今回の調査結果の分析公表に当たっては、

- 3、尿検体と個人の1対1対応が不可能な unlinked anonymous 法を用いることによって個人の秘密情報を開示漏出させず、従って患者個人に不利益を与えるものでないこと。
- としている。

さらに、診療方針自体については、患者ないしその近親者に対してはインフォームドコンセントをもとめることも平常通りである。救命救急センターに付託された社会的役割を改めて述べるまでもなく、もとよりこれまでもすべての入室患者には必要な診療を等しく提供しており、薬物使用者、自殺企図者にたいしてもそのことを理由として診療内容を異にし、あるいは不利益な取り扱いをすることはあり得ない。

C. 研究結果

最近の6年間の中毒症例の分類を上図にて示す。一般に3次救急施設ではバイタルサイン、つまり意識状態、血圧、脈拍数、呼吸数、体温に異常がみられる場合がおもに搬送基準となる。しかし中毒症例では眠剤服用などはとくにその服用からの時間が十分に経って来院する場合などバイタルサインに異常はみられないことが多く、救急隊などの判断で2次救急施設に収容されるケースも多々みられる。しかし、症例によっては自殺企図など、中毒がもつその事件性から、例えバイタルサインに異常がみられなくても3次救急施設への転送となることもある。このことをふまえ、図で示すように精神・神経薬を含めた医薬品による中毒症例が第1位と比率では約6割から8割をしめているが、この6年間その比率に大きな変化はみられない。

新谷からは高次救急施設では医薬品による中毒症例が第1位と多く、かわって1次救急施設や、電話相談ケースでは家庭用薬品による中毒が第1位